

(2) 勝岡城跡



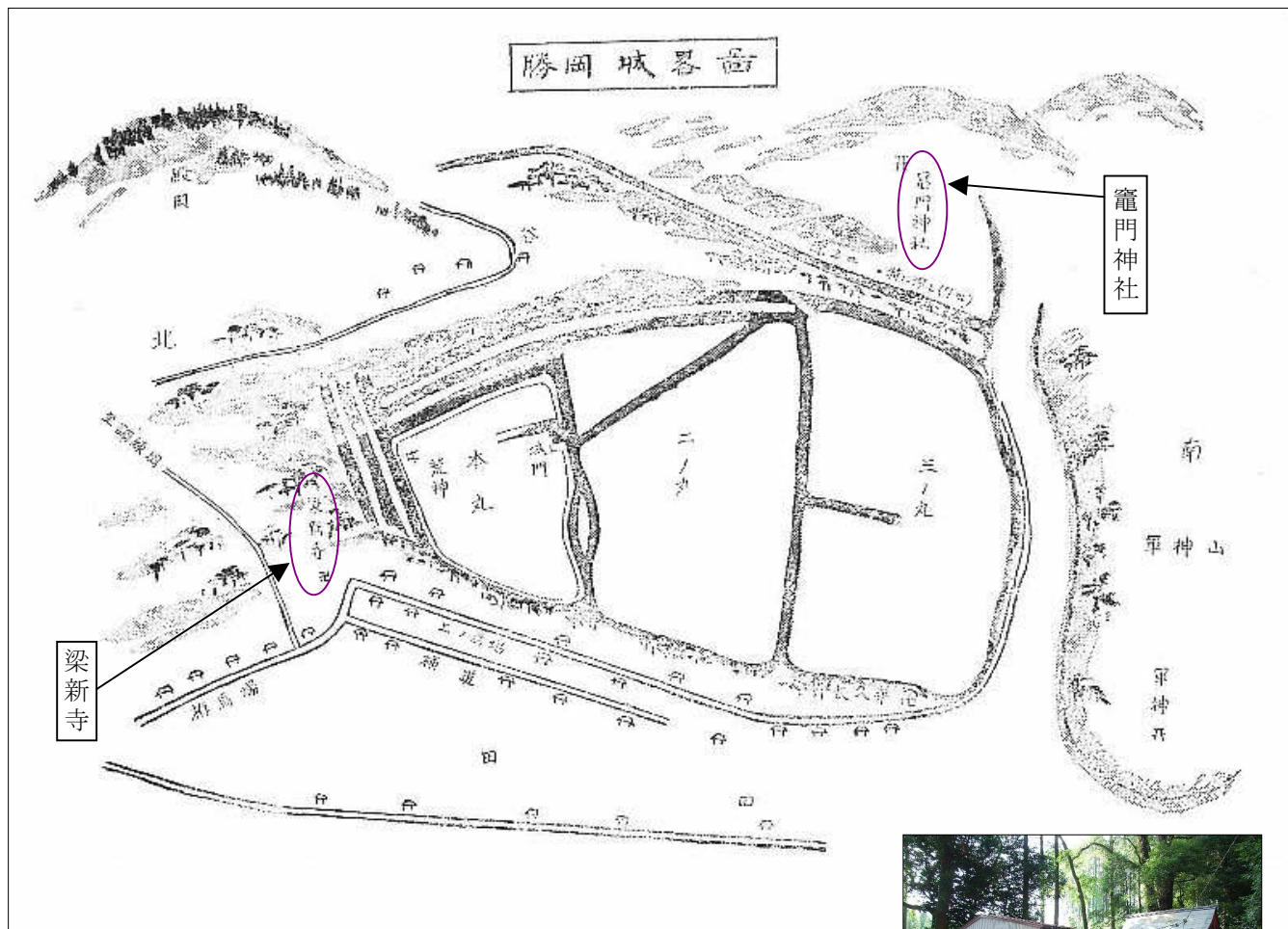
勝岡城跡の西側麓にある勝岡地頭の館跡地。道路を挟んでさらに西側には勝岡納骨堂（雞足山梁新寺跡）があります。梁新寺は、『三股町史 改訂版』（P.132）に北郷家十代目当主時久の菩提寺であったとあります。時久の法名は「月庭梁新庵主」です。『三股町史 改訂版』は『三国名勝図会』巻之五十七を参考にして

いるようです。ちなみに時久の墓所は、都城市都島町の龍峯寺跡です。

平成15年3月に現地に説明板を設置したのですが、平成17年の台風14号で吹き飛ばされてしまいました…以後、再設置は行っておりませんので、残念ながら現地に説明板はありません。

勝岡城は、現在のところ絵図は見つかっておりません。梶山城については絵図が残されているのに、勝岡城にはなぜ無いのか？と思われるかもしれませんが、梶山が都城島津（北郷）家領であったのに対し、勝岡は鹿児島本藩の直轄領であったことに起因しているのかもしれませんが、絵図が鹿児島で見つかる可能性は否定しませんが、その可能性は低いと言わざるを得ないのが現状です。

以下では、『三股町史 改訂版』（以下『町史』）に掲載されている略図を紹介して、若干の補足をします。



竈門神社

この略図は、『町史』の53ページに掲載されているものです。また、54ページに俯瞰図、55ページに「明治元年現在」と注記された付近略図が掲載されていますが、元の図が粗いためにスキャニングしても黒くつぶれてしまいましたので、割愛しました。この略図がいつ頃描かれたのかは不明ですが、「明治元年現在」の略図と酷似していますので、それを参考に描かれたものと思われます。

図を見ますと、勝岡城は北から、本丸—二ノ丸—三ノ丸と連なり、各曲輪を堀で区切り、本丸を三重の横堀で囲んでいるように見えます。確かに、現地も本丸と思われる平坦地が一番高く、三ノ丸へ向かって段々と低くなっています。竈門神社、梁新寺も現在の位置と変わっていません。南の軍神山は現在の墓苑高才原（三股町墓地公園）辺りでしょう。